



平成28年2月8日

各 位

上場会社名 ケンコーマヨネーズ株式会社
代表者 代表取締役社長 炭井 孝志
(コード番号：2915 東証第一部)
問合せ先 取締役 常務執行役員 村田 隆
電話番号 03-5962-7777

業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成28年2月8日開催の取締役会において、最近の業績動向を踏まえ、平成27年5月11日に公表いたしました平成28年3月期の業績予想及び配当予想について、下記の通り修正することを決議いたしましたのでお知らせいたします。

1. 業績予想の修正

(1) 平成28年3月期 通期業績予想数値の修正 (平成27年4月1日～平成28年3月31日)

①連結業績予想数値の修正

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	63,200	3,050	3,000	1,770	124.55
今回修正予想 (B)	66,000	3,320	3,300	1,930	135.81
増減額 (B-A)	2,800	270	300	160	—
増減率 (%)	4.4	8.9	10.0	9.0	—
(ご参考) 前期実績 (平成27年3月期)	60,327	3,001	2,776	1,642	115.57

②個別業績予想数値の修正

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	52,400	2,650	1,600	112.59
今回修正予想 (B)	54,800	2,770	1,670	117.52
増減額 (B-A)	2,400	120	70	—
増減率 (%)	4.6	4.5	4.4	—
(ご参考) 前期実績 (平成27年3月期)	50,263	2,648	1,593	112.13

(2) 修正の理由

①連結業績予想数値の修正理由

当社が従来より進めてまいりました業態別チームによるきめ細やかな対応が、お客様との一層の関係強化や新たな市場の創出などに寄与いたしました。その結果、売上高につきましては、マヨネーズ・ドレッシング類、サラダ・総菜類、タマゴ加工品と何れも順調に売上を伸ばすことができ、期初に策定した連結売上高予想を上回る見込となりました。

売上高の増加に伴い、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は何れも期初に策定した連結業績予想を上回る進捗であり、各利益段階で過去最高益を更新する見通しであります。以上の理由により、前回公表しました連結業績予想を修正することといたしました。

なお、第3四半期累計期間における親会社株主に帰属する四半期純利益は、当社の持分法適用関連会社の全株式を譲渡したことに伴う法人税等の減少及び為替差益が発生したことにより、前年同四半期比で75.4%増加と大幅な伸びとなりました。

しかしながら、今後の事業拡大に向けたグループ新生産拠点構想に基づき、一部生産拠点について新設・移転等の計画を策定中であり、当連結会計年度末までに一過性の費用計上が想定されていることから、前連結会計年度比で17.5%増加と通期での伸びは緩やかなものとなる見通しであります。

②個別業績予想の修正理由

個別業績予想につきましては、連結業績予想の修正と同じ理由であります。

2. 配当予想の修正

基準日	1株当たり配当金		
	第2四半期末	期末	年間
前回発表予想 (平成27年5月11日)	11円00銭	14円00銭	25円00銭
今回修正予想	—	17円00銭	28円00銭
当期実績	11円00銭		
(ご参考) 前期実績 (平成27年3月期)	10円00銭	13円00銭	23円00銭

修正の理由

当社グループの配当政策は、株主の皆様へ安定した利益還元を継続することを基本とし、当社の成長とあわせて株主配分も高めていくこととあります。この配当政策に則り、最近の業績動向に基づき検討しました結果、期末配当金予想は当初予想から3円増配の17円（年間配当金予想は28円、前期比5円増配）へ修正することといたしました。今後も株主の皆様への利益配分の拡大と当社の財務方針である財務体質の安定強化及び資本の効率性向上とのバランスを保ちつつ、健全な成長を目指してまいります。

なお、本件は平成28年6月28日開催予定の定時株主総会の決議事項として付議する予定であります。

(注) 上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上